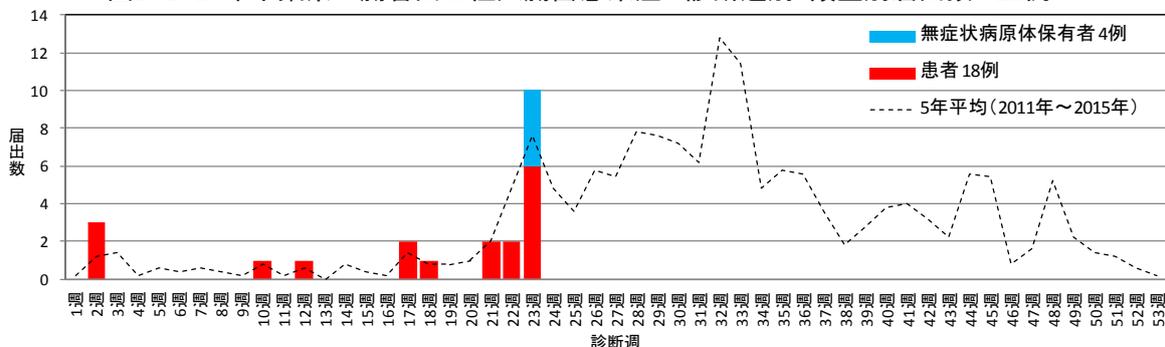


腸管出血性大腸菌感染症

2016年23週に10例の届出があった(図1)。腸管出血性大腸菌は少量の菌数(100個程度)でも感染が成立するため、人から人への経路、または人から食材・食品への経路で感染が拡大しやすい¹⁾。23週に届出数が急増したため2016年に届出された22例の発生状況をまとめた。

図1 2016年千葉県の腸管出血性大腸菌感染症 診断週別・類型別届出数 22例



性別は、男性13例(59.1%)、女性9例(40.9%)であった。

年齢群別では、20代6例(27.3%)、50代5例(22.7%)が多かった。

類型別では、患者18例(81.8%)、無症状病原体保有4例(18.2%)であった。

患者18例の症状等は、腹痛13例(72.2%)、水様性下痢12例(66.7%)、血便10例(55.6%)、発熱7例(38.9%)であった(複数報告あり)。

O血清群別では、O157が15例(68.2%)、O26が6例(27.3%)、O111が1例(4.5%)であった。O157とO26についてVT型別に図2、図3に示す。

図2 2016年千葉県の腸管出血性大腸菌O157感染症 診断週別・VT型別届出数 15例

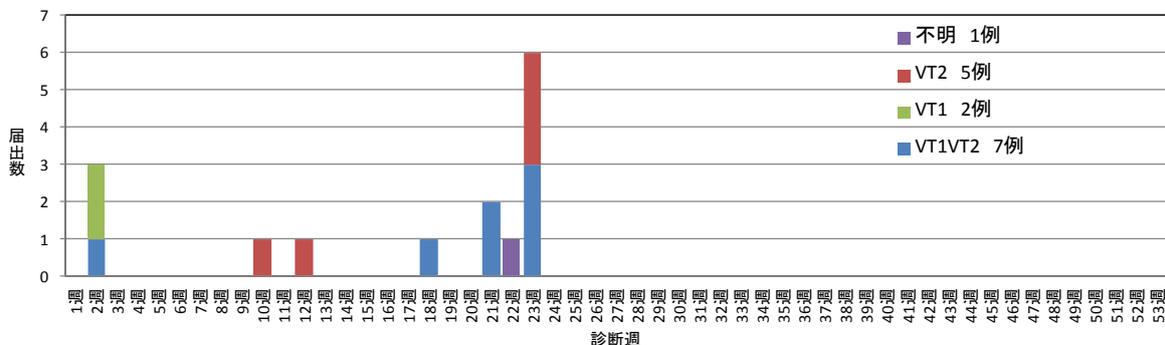
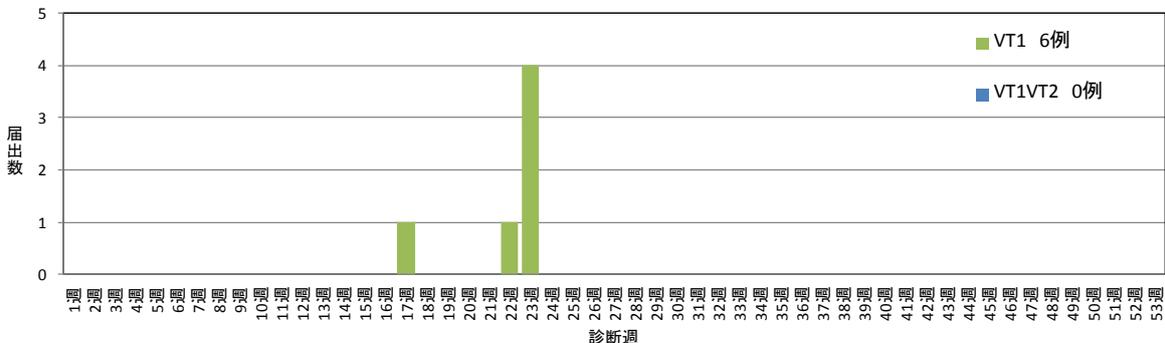


図3 2016年千葉県の腸管出血性大腸菌O26感染症 診断週別・VT型別届出数 6例



参考

- 1) 病原微生物検出情報(IASR) Vol. 37 No.5 特集 腸管出血性大腸菌感染症 2016年4月現在
URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/ehec/552-idsc/iasr-topic/6472-435t.html>